

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 1	担当教員	尾西 教彰 小畑 克典 島津 太一 近藤 のぞみ 石井 路子 野津 直樹 深澤 南士実 河村 竜也 崔 光雄 寺田 卓矢 岡元 ひかる 小島 寛大 安藤 竜 島村 和秀 山谷 典子
必修の区分	必修		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1 年 第 2 クォーター		
講義内容	芸術文化・観光プロジェクト実習 1 では、芸術文化と観光の双方の視点を生かした演劇祭に係る実習を通じて、地域における芸術文化・観光プロジェクトの全体像を把握し、企画・運営の仕方、住民および観客との関わり方等を知る。これによって国際的フェスティバルにおける芸術文化と観光との関連性を実感するとともに、両分野の連携に関する課題を発見し、その解決と新たな展開へ向けての視点を獲得する。		
到達目標	<p>① 国際的な演劇祭における企画・運営の仕方、住民および観客との関わり方等を通じて、地域における芸術文化・観光プロジェクトの全体像を把握できる。</p> <p>② 国際的な演劇祭を通じて、交流人口の拡大という観光視点を含め、その課題を理解することができる。</p> <p>③ 国際的な演劇祭を通じて、パフォーマンスアーツと結びつくことで生まれる観光の新たな価値に気づくことができる。</p>		
授業計画	<p>前半は、演劇祭の調査やステークホルダー等からのレクチャーを聞き、演劇祭の運営について知識を深める。それをもとにグループで企画立案を行う。後半は、演劇祭で現場実習に出るものと、現場調査を行うものに分かれて実施する。</p> <p>実習中は、演劇祭の実習指導者等によるレクチャーを受けることで、演劇祭に関係する実務の性質や技能を理解するとともに、演劇祭が持つローカルかつグローバルな意義を学ぶ。演劇祭そのものに参加することによって演劇祭全体を理解できるようにする。</p> <p>中間時点では芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会として企画立案を発表し、演劇祭主催者等との意見交換を行う。最終日には実習全体を振り返って、演劇祭主催者等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は完了報告書を作成する。</p>		
事前・事後学習	参加する学生は事前説明会等に必ず出席し、定められた様式で、実施計画書、日報、完了報告書を作成する。		
テキスト	特になし。		
参考文献	適宜指示する。		

成績評価の基準	日報内容・ディスカッション (50%)、日報提出 (20%)、実習報告書・中間プレゼン (30%)
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	現場調査を行う場合、チケット代や交通費等の自己負担が発生する可能性がある。